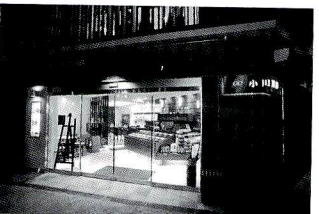




「ワールドバリスタチャンピオンシップ2008日本代表選考会」も兼ねた、日本スペシャルティコーヒー協会開催「JBC08-09」で得た優勝トロフィー。予選(本年予選参加153名)を突破した8人が決勝に出場し、日本一を争った



世界3位の妙技で描く「富嶽三十六景の内、神奈川沖浪裏」。コペンハーゲンで開かれた世界大会ゆえ、テーマをあえて「和」に定め、浮世絵や鶴といった日本らしいモチーフで勝負。創造性、複雑性、コントラスト、すべて天晴れ



岡田さんが三条店に立つのは金曜のみ。その日は、カウンターが多くのファンで埋まるほど。中には、有給を使って訪れる女性やアドバイス欲してやってくる学生の姿も。「今日はいますか?」と確認電話が鳴るのも茶飯事

バリスタ

岡田章宏

OKADA AKIHIRO



取材・文/山田涼子 撮影/福森クニヒロ

【プロフィール】京都市生まれ。2004年5月、小川珈琲株式会社入社。総合開発部企画開発課に所属し、バリスタとしての修業を重ね、07年には本場イタリアにて国際カフェティスタ協会 (IIC) バリスタ資格スペシャリスト (レベル2) を取得。「ワールドラテアートチャンピオンシップ2008」3位入賞、「ジャパンバリスタチャンピオンシップ08-09」優勝。現在は、本社に籍を置きながらエスプレッソコーヒーの開発や後進の指導、開業店舗での技術指導を中心に幅広く活動中。

日本No.1の「京のバリスタプリンス」 来春、世界の頂点を獲りに行く

「ソムリエ」や「パティシエ」の如く、「バリスタ」という専門職名の認知度が高まって数年。とはいえず、去る10月15、16日に東京ビッグサイトで開催された「ジャパンバリスタチャンピオンシップ08-09」(以下、略称JBC)で念願の優勝を手にした岡田さんが「バリスタ」という職業について知った02年、関西に「バリスタ」を名乗る職人は皆無だった。全くの畑違いである呉服商を退社し、珈琲好きが高じてカフェ開業を目標に、小川珈琲本店のバリスタスタッフとしてアルバイトからスタート。雑誌で目に留まった「バリスタ」についての小さな記事を読んで、「バリスタでなら」世界一になれるチャンスがある」と、情報収集を開始する。その後、東京まで足を運び、飛び込みでバリスタめぐり。そこで出会ったチャンピオン横山氏が、現在の上司と知り合いたと聞く。翌日、偶然にも社内でも声をかけた相手が、その本人だったというから巡り合せの妙である。

「将来的にもバリスタという存在が会社に必要だ」と感じていた現上司の後押しで、バリスタになることに。前提に正社員として入社することに。そうした先見の明を持つ人がいるからこそ、カフェの街・京都があり続けられる。「当時から『バリスタ』がニックネームでした(笑)」というほど、社内でもちよつとした有名人だった彼が、本場の意味でその名を知らしめたのは、本場イタリアでバリスタ資格を取得してから。バリスタ資格は、国際ティスタ協会(TSCA)の管轄であることから分かるように、ティスタ協会が基本となる。その点「多種多様な豆が飲める環境は恵まれていた」と岡田さん。帰国後セミナーや講習会などで指導する機会も増え、「JBC2005」にも出場。2度目で10名が残るファイナルへ進出を果たす。今回、優勝したのは5度目の出場だったが、途中、大きな挫折も味わった。3度目の出場でも、まさかの大阪予選落ち。自信があつただけに「かなりショックでした」と当時を振り返る。この頃から、パフォーマンス後には必ずガッツポーズを見せるようになるが、それは一種の戒め。「大きなガッツポーズしてあかんかったら恥ずかしい。でもそれが反って、やる以上はトップに!という追い込みになった。重く圧しかかる会社の期待を抱え、「これで最後」という覚悟で挑んだ4度目は惜しくも準優勝。ここまでくれば、もう優勝しかない。

そのとき、「今回で最後、という考え方が小さい」と気づいた。最先端の情報が集まる世界の場に、「小川の人間がいることにこそ意味がある」と。日本のお客様に最新の珈琲を届けるためには、誰かが走り続けなければならぬ。彼に続く若者たちに道を譲ることも大切だろう。しかし、いまはまだ「自分が一番世界に近い場所にいる」と彼は自負している。そんな大きな使命を担い、「チームOGAWA」の代表として、来春4月彼はアメリカへ飛ぶ。日本人初の世界一の称号を手にするために。

information

小川珈琲 京都三条店

京都市中京区三条通木屋町北東角
三条木屋町ビル1F
075-251-7700
9:00~21:00、金土祝前日~22:00/無休
<http://www.oc-ogawa.co.jp/>